

Poster (III-P41)

Chair: Kensuke Karasawa (Nihon University School of Medicine, Department of Pediatrics and Child Health, Karasawa Clinic)

Sun. Jul 9, 2017 1:00 PM - 2:00 PM Poster Presentation Area (Exhibition and Event Hall)

1:00 PM - 2:00 PM

[III-P41-06] 2nd line治療までを行った後に転院となり4th lineまで治療を行い寛解に至った川崎病3例の検討

○ 升森 智香子^{1,2}, 都築 慶光¹, 長田 洋資¹, 中野 茉莉恵¹, 水野 将徳¹, 後藤 建次郎¹, 栗原 八千代¹, 麻生 健太郎¹ (1. 聖マリアンナ医科大学病院 小児科, 2. 川崎市立多摩病院 小児科)

Keywords: 川崎病, 血漿交換, 4th line therapy

【背景・目的】主に地域医療を担う市中病院では川崎病の2nd lineの治療を2回目 IVIGで行い3rd lineの治療が必要な状態となってからより高度な医療が可能な中核医療施設に転院させていることが多いと思われる。この場合2nd line治療から3rd lineの治療開始まで連続した観察ができないため3rd lineの治療が遅れる可能性がある。今回2nd lineまで治療を行なったのちに転院し、3rd line, 4th lineの治療を要した川崎病3症例を経験した。我々の経験から治療計画を再考した。【方法】3rd lineの治療が必要なため紹介となり、最終的に4th line治療で血漿交換療法 (PE) を行った3症例の後方視的検討【結果】症例: 3名。年齢: 中央値1歳(0.1-5歳)。性別: 男児1名、女児2名。川崎病診断病日: 中央値5日(4-5日)。群馬スコア中央値6(5-7)。1st line therapy: 全例 IVIG単独。治療開始日: 5日(4-5日)。2nd line therapy開始前: 体温39°C(37.7-39.6°C)、CRP13.2mg/dl(6.3-13.7mg/dl)。2nd line therapy: 全例 IVIG、投与日7日(6-7日)。転院前体温中央値39.5°C(37.8-39.5°C)、CRP12.3mg/dl(6.3-13.2mg/dl)。転院時期: 中央値9日(8-9日)。3rd line therapy 前: 体温中央値39.6°C(39.4-39.9°C)、CRP11.9mg/dl(11.57-12.3)。3rd line therapy: インフリキシマブ (IFX) 2名、IVIG1名。投与日中央値9日(8-9日)。4th line therapy前: 体温中央値38.6°C(38.8-38.5)、CRP8.1mg/dl(7.55-8.73mg/dl)。4th line therapy: 全例 PE。施行日中央値11日(10-11日)。解熱日: 中央値11.5日(11-12日)。CAL合併例: なし。【考察】搬送を決定したのは全例8病日以降で、解熱は11病日を超えて確認されていた。2nd line治療の効果判定後に転院するため、3rd・4th lineの治療開始までに時間を要す。炎症を早期に鎮静化させるため1st line治療後に高度の発熱、高度炎症所見が残る場合は2nd lineの治療として IFXやPEを用いることも検討する余地がある。